

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立海道小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	25人	算数	25人	理科	25人
第5学年	国語	40人	算数	40人	理科	40人

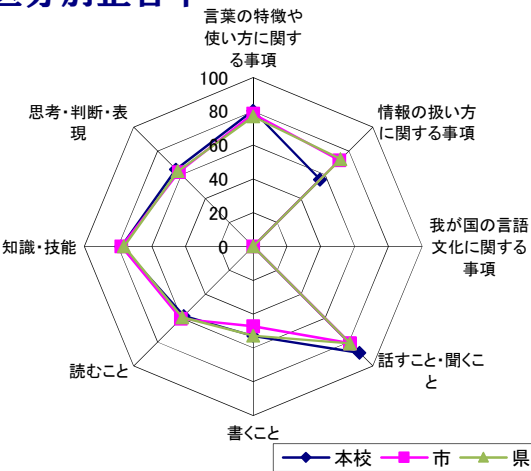
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.4	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	56.0	72.2	73.1
	我が国の言語文化にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	89.0	81.0	81.1
	書くこと	53.0	47.2	52.8
観点	読むこと	58.0	60.5	59.3
	知識・技能	78.0	78.0	76.5
	思考・判断・表現	64.5	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

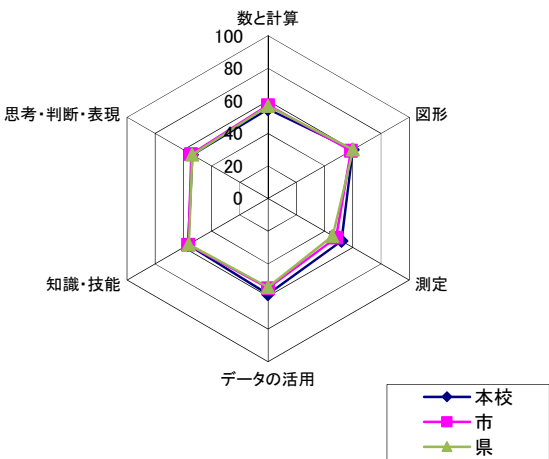
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○既習の漢字を正しく読んだり書いたりする問題では、総じて市や県の正答率を上回っている。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題の正答率は、市や県より7ポイント程低い。また、ローマ字で表記されたものを正しく読む問題の正答率は、市や県より4～7ポイント程低い。	・漢字の学習において、正しい読み書きの習得を図れるように家庭学習や朝の学習で継続的に指導をしていく。 ・多くの用例や問題文、児童自身が書く文章において、語と語の関係を意識しながら捉えられるようにする。 ・外国語と関連付けたり、朝の学習時間や家庭学習においてプリント等で補ったりして、ローマ字とその読み方の定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかをみる問題では、市や県の正答率を15ポイント以上下回った。	・国語科に限らず他教科等の調べ学習や日常生活の中でも辞書や辞典を積極的に利用できるようにすることで、使い方を理解したり、慣れたりすることができるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○司会者の話し方の工夫を捉える問題の正答率は市や県より15ポイント程高い。	・今後も教科や学級活動での話し合い活動の充実を図り、話したり聞いたりする活動を意図的に取り入れる。 ・話し合い活動では、誰もが司会者を経験し、その役割や話し合いをまとめる体験を通して学べるようにする。
書くこと	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる問題の正答率は市や県よりやや高い。 ●指定された長さで文章を書く問題の正答率は県よりやや低い。	・日記等で児童にとって興味・関心がわくようなテーマを選んで書く楽しさを味わわせる。 ・長さを指定したり、2段落構成で書いたりするなど、条件に合わせて文章を書くことで、指定された条件で文章を書くことに慣れさせる。 ・授業内での振り返り等で文章を書く場面を多く設定し、書く力の定着を図る。
読むこと	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉える問題の正答率は、市・県より5ポイント程上回った。 ●登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像する問題の正答率は、市・県より8ポイント程低い。	・積極的に学校図書館を利用し、文章を読む機会を多く設ける。 ・今後も物語文において、登場人物の台詞や台詞前後の様子等を表した言葉を大切にしながら、登場人物の気持ちを考えていく。 ・登場人物の気持ちの変化については、全文シートや心情曲線を活用して視覚的に支援していく。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.9	57.4	56.9
	図形	60.0	58.7	60.1
	測定	52.0	48.1	45.7
	データの活用	58.7	54.9	54.3
観点	知識・技能	56.7	56.6	56.2
	思考・判断・表現	53.8	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

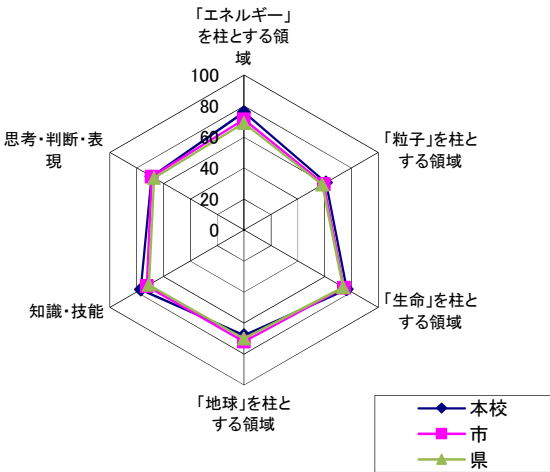
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均より低い。 ○大きな数の表し方や整数－小数第一位の計算については、市や県の正答率を上回っている。 ●式の意味を言葉で説明したり、わり算での余りの考えをもとに計算を説明したりする問題では、市や県の正答率を下回っている。さらに、説明を記述で答える問題では、無回答率が30%を超えている。	・今後も大きな数や小数、分数、計算等の基礎的な内容について、授業だけでなく、朝の学習や家庭学習の中でも、計算ドリルやAIDドリル等を活用して繰り返し練習を行い、学習内容の定着を図るようにする。 ・式の意味や計算の仕方を説明する機会を多く取り入れ、言語化したり記述して説明したりすることで、抵抗感を減らしていくようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より高い。 ○球の切り口の形を選んだり、球の半径や直径を利用して長さを求めたりする問題では、市や県の正答率を大きく上回っている。 ●二等辺三角形になる点を見つける問題では、市や県の正答率を8ポイント以上下回っている。	・今後も具体物の操作活動や、実物投影機などのICTも活用しながら、図形の性質を視覚的に捉えさせ理解できるように指導する。 ・図形の性質については、他の図形と比較したり作図をしたりしながら定着を図るようにする。また、児童一人一人の状況を把握し、個に応じた指導をしながら理解を深められるようにする。
測定	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○長さの単位について理解し、2つの道のりを比べてどちらの方が短い説明する問題では、市や県の正答率を10ポイント以上上回っている。 ●時間と時刻を理解し、時刻を求める問題では、市や県の正答率を4ポイント以上下回っている。	・今後も日常生活の中で長さや重さなどの大きさを推測、測定する機会を意図的に設けたり、具体物の操作や体験活動等を多く取り入れ、児童が意欲をもって課題解決に取り組んだりできるように指導する。 ・時間と時刻においては、日常生活の中で時間や時刻を意識するような機会を設定し、定着を図る。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題では、市や県の正答率を大きく上回っている。 ○二次元の表の合計欄の意味を理解しているかをみる問題では、市や県の正答率と同程度である。	・今後も他教科も含めた学習の中で、身の回りの事象について、児童の興味・関心や問題意識に基づき、表や棒グラフに表す活動などを位置付け、グラフを身近なものとして感じられるよう課題の工夫を行う。 ・二次元の表の意味についてさらに理解を深めるため、3・4年生を通じて、説明し合う学習を取り入れたり、4年生では、3年生での学習の復習を取り入れたりしながら、つながりを大切にしたい指導を工夫する。

宇都宮市立海道小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.0	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	61.0	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	76.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	68.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	77.0	72.5	70.9
	思考・判断・表現	68.9	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市・県より高い。 ○風の強さとものを動かすはたらきの関係や輪ゴムの本数とものを動かすはたらきの関係、豆電球の明かりがつく回路の組み合わせについては、市・県より正答率が10ポイント程上回った。 ●磁石につくものの条件について正しく考察できているかについては、市・県よりも2～6ポイント程下回った。	・観察や実験を通して実際に体験した学習内容についての正答率が高いことから、基礎的な知識が確実に身に付くよう、今後も実験や観察を通して、結果を導き出す学習の流れを定着させる。 ・磁石について、問題の把握や予想・仮説、結果の整理、考察などの学習活動を計画的に設定し、児童の言葉で考察する機会を大切に丁寧な学習展開を心掛けていきたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市・県より高い。 ○重さを比較しながら調べる際に、はかりを用いて正しく調べる技能が身に付いているかを問う問題では、92%の児童が正答しており、市・県より7～8ポイント程上回った。 ●重さを揃えた異なる材質の体積のちがいで考える問題では、市・県の正答率を上回ったが、40%と低い正答率であった。	・形を変えても重さは変わらないことや、教具(はかり)の使い方については十分理解できているため、引き続き、表やグラフと関連付けて考える活動を意図的に取り入れていく。教具の使い方についても毎回確認し、確実な定着をはかる。 ・体験を重視し、視覚化(重さや体積の違いを目で見てわかるようにする工夫)をすることで、児童から疑問を引き出し、思考力を育めるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市・県より高い。 ○モンシロチョウの育ち方や体のつくりについての問題では、90%以上の児童が正答しており、市・県より6ポイント程上回った。 ●モンシロチョウとトンボの育ち方の差異を答える問題では、正答率36%と低く、市・県よりも8ポイント程下回った。	・植物や昆虫の体のつくりで代表される、共通性の視点と生物の多様性の視点の両方から、身の回りの生物に関する事象を捉えられるよう、教材を工夫したり、意図的な発問を行ったりする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市・県より低い。 ○太陽と日陰の位置関係と、日光が遮られてできた影の影の位置を関連付けて考える問題では、市・県の正答率を上回った。 ●方位磁針の正しい使い方についての問題では、市・県より5ポイント程下回った。 ●日なたと日陰について見いだした問題に正対した記録を選ぶかどうかの問題では、市・県よりも4～7ポイント程下回った。	・方位磁針の使い方については、理科に限らず他教科においても方位を調べる活動で積極的に活用し、体験的に身に付けられるようにする。 ・日なたと日陰について見いだした問題に対して、実験方法や結果の整理、考察など、それぞれの学習過程を大切に、科学的な見方・考え方をはたらかせるような学習を展開したい。

宇都宮市立海道小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。」に肯定的に回答した児童の割合は9割近くになり、県の肯定的割合を大きく上回っている。世の中の事象や学習に高い興味・関心を持っていることがうかがえ、日頃から、児童の興味を引くような課題提示や問題提起する学習の成果が現れている。今後も、児童の学びに寄り添った学習を展開していく。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがや雑誌は除く)。」に11冊以上と答えた児童の割合が最も多く、県の最多の回答が5～10冊であることから、読書量が上回っていることが分かる。これは学校図書館司書と連携した様々な取り組みの成果が表れていると考えられ、今後も、朝の読書の時間の確保や図書室の利用の推奨をしていく。

○「友達と話し合うとき、友達の話最後まで聞くことができる。」の肯定的回答は約9割で、授業中はもとより、日常生活でも相手の顔を見て、話を最後までよく聞くよう指導してきた成果が現れている。

○社会・算数・理科の授業内容が分かると回答した児童の割合は9割以上であった。教材研究をしっかりと行うとともに、個に応じた丁寧な指導をしてきた成果と考えられるので、今後も一人一人を大切にしながら、わかる授業の展開に努めていきたい。

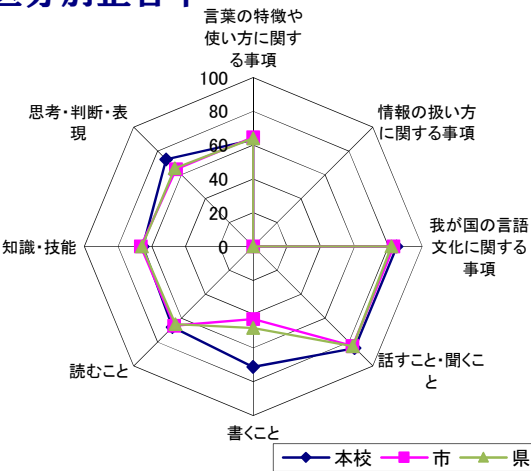
●「家で、計画を立てて勉強をしている。」に肯定的に回答した児童の割合が4割で、県平均を下回った。また、「家で、学校の授業の予習をしている。」に肯定的に回答した児童の割合が3割で、こちらも県平均を下回った。漢字練習や計算練習などの計画的な家庭学習への取り組みを推奨するとともに、日々のチェックと励ましに努めていきたい。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」と回答した児童の割合は県平均を下回った。その一方で、「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」「自分がもっている能力を十分に発揮したい。」と回答した児童は8割であった。自分のよさや能力を生かしたいという児童の意欲を大切にし、得意分野で活躍できる場を設定したり、自己肯定感を高められるように励ましたりするなど、自信をもって行動できるような指導を推進していきたい。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	63.1	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	85.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	85.0	83.3	83.4
	書くこと	71.3	42.8	48.2
	読むこと	67.5	66.1	65.1
観点	知識・技能	65.3	66.5	65.9
	思考・判断・表現	72.8	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

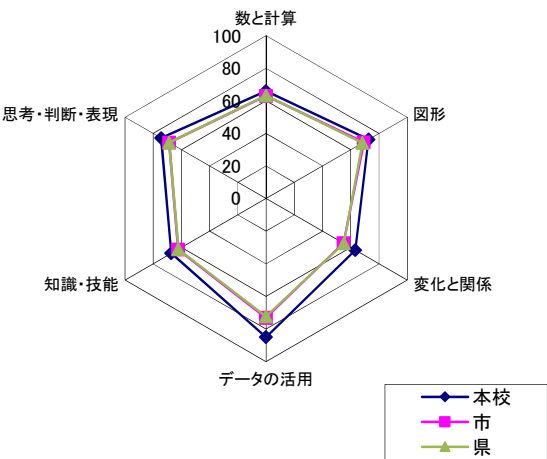
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市・県の正答率より低い。 ○4年生までに習った漢字の書き取りについては、市・県の正答率より10ポイント程高いものが多い。 ●4年生までに習った送り仮名がつく漢字の読みや書きが市・県の正答率より20ポイント程度低い。 ●熟語の漢字の組み合わせを理解して、熟語の意味を捉える問題では、市・県の正答率より3～8ポイント程度低い。	・新出漢字の指導の際には、特に送り仮名が付く漢字の読みや書きを丁寧に行う。 ・漢字の熟語では、その意味や構成を理解させ、語彙を増やしたり言葉を正しく使ったりできるように指導する。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市・県の正答率より高い。 ○ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いる問題は、市や県の正答率より高い。	・授業や児童との対話の中で慣用句やことわざに触れる機会を意図的に設定し、言語文化に関心をもてるようにしていく。 ・慣用句やことわざに興味を持つ児童が増えるように、慣用句やことわざについて調べる学習を随時取り入れたり、児童の自主的な取り組みを紹介したりしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市・県の正答率より高い。 ○話合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめる問題では、市・県の正答率より6ポイント程度高い。	・教科や学級活動で話し合い活動の場を計画的に設定し、話したり聞いたりする活動に慣れさせる。 ・話し合いを行う際には、話し合いの目的を理解させ、相手との共通点や相違点について着目させる。また、相手が述べたことに対して、理由を明確にして自分の考えをまとめることができるようにしていく。
書くこと	平均正答率は、市・県の正答率より高い。 ○アンケート調査の結果を読み、条件に合わせて文章を書いたり、読み取ったことを基に、自分の考えを書いたりする問題では、市・県の正答率より20～30ポイント程度高い。	・調査や分析を基に読み取ったことを、字数制限や条件に合わせて書けるように引き続き指導していく。 ・作文や日記、視写の指導を継続的に行った上で、データを基に自分の意見を書く活動に慣れさせる。
読むこと	平均正答率は、市・県の正答率より高い。 ○登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像する問題では、市・県の正答率より7%程度高い。 ○叙述を基に、文章の内容を捉える問題では、市・県の正答率より10%程度高い。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有する問題では、市・県の平均正答率より3ポイント以上低い。	・積極的に学校図書館を利用し、様々なジャンルの本を読む機会を多く設ける。 ・登場人物の気持ちを具体的に想像し、条件に合わせて指定された字数内で答える問題に慣れさせる。 ・文章の叙述を基に内容を正確にとらえるようにしていくとともに、文を読んで感想を共有する時間を大切にする学習を展開していく。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.0	63.0	63.3
	図形	72.5	69.2	68.3
	変化と関係	63.3	54.8	55.0
	データの活用	85.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	67.2	62.3	62.1
	思考・判断・表現	74.4	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

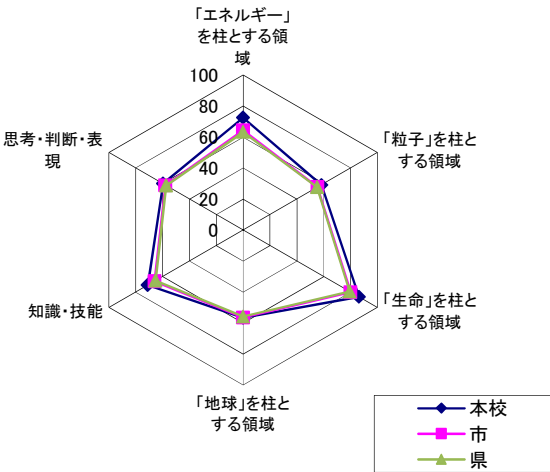
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○「整数－（1より小さい小数）」の計算の正答率は、市や県の平均より10ポイント以上高い。また、式の意味を表したものとして、正しい図を選ぶ問題の正答率は、市や県の平均より10ポイント程高い。 ● 大きい数のしくみの理解をみる問題の正答率は、市や県の平均より13ポイント以上低い。また、式の意味を正しくとらえているかをみる問題の正答率は、市や県の平均より4.6ポイント程低い。	・算数用語の意味や、計算の基礎・基本について指導を徹底するとともに、除法の学習においては、商の見当をつける等計算の基礎力を確実に身に付けさせていく。今後も計算ドリルやAIDドリル、学習プリントを有効活用したり、家庭学習の内容を工夫したりするなどして既習事項の確実な定着を図り、個に応じた指導を充実させ、基礎的な内容の理解を深める。 ・他の人が作った式の意味を考えたり説明したりする活動を増やし、式と言葉を結び付けて考える機会を設ける。
図形	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○立体の構成要素から立体を見分ける問題の正答率は、市や県の平均より6ポイント程高い。また、ものの位置の表し方を理解し、もとにする位置を考える問題の正答率は、市や県の平均より7～9ポイント高い。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題の正答率は、市や県の平均より6ポイント程低い。	・立体やものの位置の学習では、実物を見たり操作したりしながら、立体の構成要素や物の位置関係について学んできた。今後も具体物を活用しながら、思考を深められるようにしたい。 ・三角定規の形と角の大きさの定着を図るため、実際に操作する活動を増やし、既習事項と関連付けて指導する。また、複合図形の角度を求める際には、分解して考えるなど、段階的な思考過程を丁寧に指導する。
変化と関係	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○伴って変わる2つの数量の関係を読み取る問題の正答率は、市や県の平均より15ポイント以上高い。また、伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の正答率は、市や県の平均より6ポイント以上高い。 ●割合を使った長さの求め方を説明する問題の正答率は、42.5%で市や県の平均よりやや高いが、割合が基準量の何倍か求めることに課題が見られる。	・今後も「読み取る力」「式に表す力」をさらに伸ばすため、多様な具体例やグラフ、表などを活用し、より複雑な数量の関係や変化のパターンについて考察する機会を増やし、日常生活の中の事象と関連付け、数学的な見方・考え方を養う指導をする。 ・概念理解の定着のため、特に「割合が基準量の何倍か」という考え方に焦点を当て、具体物や図、数直線などを積極的に活用し、視覚的に分かりやすい指導を行う。また、割合を使った長さだけでなく、様々な場面設定（量、人数、金額など）での割合の問題に触れさせ、汎用的な理解を促す。
データの活用	平均正答率は、市・県の平均より高い。 ○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから正しい傾向を読み取る問題の正答率は、市や県の平均より18ポイント程高い。また、二次元の表の意味を理解しているかをみる問題の正答率は、市や県の平均より15ポイント程高い。	・データ分析の意義や有用性を体感させるため、身の回りの事象から目的に応じてデータを集めて分類整理したり、それらの特徴や傾向に着目して適切なグラフを選択して判断したりするなど、物事を多面的に捉える活動を多く取り入れる。 ・考察力や思考力の向上のため、データを読み取るだけでなく、そこからどのような傾向や結論が導き出せるかを考察させ、自分の言葉で説明したり、議論したりする機会を増やす。

宇都宮市立海道小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.5	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	58.3	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	86.3	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	56.6	56.4	55.8
観点	知識・技能	71.0	66.0	65.3
	思考・判断・表現	59.8	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市・県の正答率と比べて高い。 ○直列回路と並列回路に流れる電流の大きさについて理解しているかどうかをみる問題では、市や県の正答率より22～25ポイント高い。 ●電流が流れない回路を流れるように改善できるかどうかをみる問題では、7ポイント程低い。	・電流の基礎となる内容の着実な定着を図るため、実験する時間を十分に確保し、回路作りの操作を通して体験的に理解できるような学習を展開する。 ・得られた知識及び技能を活かし、新たな疑問を見付けたり、新たな挑戦をしようとしたりできるように、児童がやってみたいことに踏み出せる環境を整える。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市・県の正答率と比べて高い。 ○閉じ込めた空気は圧し縮められるが、水は圧し縮められないことを理解しているかどうかをみる問題では、市や県の正答率より8ポイント程高い。 ●温められた空気の動き方を答える問題では、市や県の正答率より3ポイント程度低い。	・学習したことが身の回りでも適用されないか確認するような活動を取り入れ、学習したことと生活との結び付きを感じることができるようにしていく。 ・実験を行う際は、事象の変化を楽しむだけでなく、問題の把握や予想・仮説、結果の整理、考察などの学習活動を計画的に設定する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市・県の正答率と比べて高い。 ○関節について理解しているかどうかをみる問題では市や県の正答率より7ポイント、骨のはたらきについて理解しているかどうかをみる問題では13ポイント高い。 ●骨のはたらきについて理解しているかどうかをみる問題では市の正答率より13ポイント高いものの、正答率自体は57.5%であった。	・実物での観察とデジタル教材を組み合わせ、見えない部分を補いながら実感を伴う活動を行っていく。 ・考えを文章にして解答する問題での正答率が低い。学習後の振り返りや内容の確認において、多様な解答方法での問題を準備し、見方や考え方の表現力を高めたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市・県の正答率と比べてやや高い。 ○蒸発について理解しているかどうかをみる問題では、市や県の正答率より26ポイント程高い。 ●一日の気温の変化の様子を表したグラフを、正しく読み取ることができるかどうかをみる問題では、市や県の正答率より20～22ポイント以上低い。	・得られた実験結果を表やグラフに整理し、そこから科学的な見方、考え方はたらかせて読み取る活動を行うことで、データを適切に活用する力を伸ばしたい。 ・学習の際に日常の場面を想起させることで、学習したことと生活との結び付きを感じることができるようにしていく。

宇都宮市立海道小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に、何さくらい本を読みますか。」という質問について、11冊以上と答えた児童の割合は32.5%で、県の割合の約2倍となっている。各教科の学習に関連させた読書の推奨や、学校図書館司書と連携した様々な取組の成果が表れていると考えられる。

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」の肯定的回答は97.5%で、県平均を2.1ポイント上回った。引き続き、学習内容と日常生活を関連付けたり、実際に経験させたりするなど授業展開を工夫し、児童が将来へ向けて関心と意欲をもって授業に取り組めるように努めていく。

○「しょう来のゆめや目標をもっている。」の肯定的回答は95%で、県平均を5.9ポイント上回った。4年生の学習で、将来の夢などについて調べたり、今までの成長について振り返ったりしたことが要因と考えられる。今後もキャリア教育を充実させ、児童が将来へ向けて夢や希望をもてるようにしていく。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定的回答が県平均と同程度である一方で、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定的回答は70%で、県平均を8.3ポイント下回った。ただ話し合うだけでなく、話し合いの質を高めていくために、話し方や受け止め方など、話し合いの仕方に関する指導を充実させていく。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の肯定的回答は37.5%で、県平均を10.2ポイント下回った。また、「クラスは発言しやすい雰囲気である。」の肯定的回答は65%で、県平均を18.3ポイント下回ったことから、今後もグループや全体に向けて発表する場を設けるとともに、各教科及び特別活動の中で、安心して発言できる学級の雰囲気づくりに努めていく。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」の肯定的回答は50%で、県平均を15.2ポイント、「自分には、よいところがあると思う。」の肯定的回答は75%で、県平均を8.2ポイント下回った。今後は各活動において互いのよさを見つけたり伝え合ったりする場面を適宜取り入れることで、自己有用感を高められるようにしていく。

宇都宮市立海道小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えが持てるような学習活動の設定	・学習活動の中で、児童が興味・関心をもって取り組めるような言語活動の設定	児童質問調査の「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の肯定的回答で、4、5年生ともに、県の肯定的回答を下回った。
相手意識をもち、自分の考えを伝えたり、聞いたりする学習活動の工夫	・相手意識をもった「聞き方・話し方」の実践 ・自分の考えをもつための工夫	国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では、4、5年生ともに市や県の平均正答率を大きく上回った。
児童が自分で成長を実感できる振り返り活動の工夫	・自らの成長に目を向ける自己評価の実施 ・単元や内容のまとめりでの見通す・振り返る活動の重視	児童質問調査の「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」の肯定的回答は、県の肯定的回答を4年生では上回ったものの、5年生では下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「読むこと」の領域において、中心となる語や文を見つけて要約する力は、4、5年生ともに県の正答率を下回り、無回答も目立つなど課題が見られる。	読む力を高めるために、語彙力を高める指導を中心に、各教科や領域で言語活動の充実を図る。	・読書活動の充実 ・学習活動の中で、児童が興味・関心をもって取り組めるような言語活動の設定 ・学年ごとに身に付けさせたい力を明確にし、国語科を中心にした言語活動の充実と、自分の考えをもつための考える時間の十分な確保